



字幕社ジャーナル  
略してJJです  
よろしくね!

## News

### ●2009年夏季求人募集開始

2009年7月1日より夏季定期採用を開始しました。  
今回はアルバイトのみの募集となります。

・筆記試験

8月16日(日)・9月6日(日)

筆記試験合格者は9月中に面接を行い、9月末までに試用  
期間に進んでいただく一次合格者を選定する予定です。

### ●映像新聞社の取材 来る!

映像新聞社から、ウェブマガジンで字幕社を紹介したいと取材  
の依頼があり、7月9日に事務所にてインタビューを受けまし  
た。ビデオカメラの撮影も行われ、簡単な映像が配信されるそ  
うです。

■「Inter BEE online」8月4日 アップ

<http://www.inter-bee.com/ja/magazine/?start=10>

### ●2009年春季スクーリング終了

西ヶ原字幕社では毎年2回、定期採用者のために社内ス  
クーリングを開催しています。

週1回3ヶ月間、字幕翻訳の基礎から吹き替え翻訳まで、  
映像翻訳に必要な知識を身につけ、即戦力となってもら  
うために行っているものです。

ベテラン翻訳者講師のもと、毎回 課題を皆の前で発表し  
意見を出し合いながら、翻訳のスキルを学んでいきます。

08年冬季求人にて採用された5人と、次点1人の計6  
人にてスタートした春季スクーリングは、6月11日の  
最終試験をもって終了しました。

今回は同点1位が2人、その他の人も皆わずかな差でし  
た。今後の活躍が大いに楽しみです。

#### ■ 感想 ■ 竹林志保

正直なところ、内容盛りだくさんのスクーリングにはついてい  
くのがやっとで、本当に余裕がありませんでした。でも3ヶ月間  
たくさん刺激を受け、いつの間にか多くのことを学び、悟った  
気がします。最後まで粘ってよかったです。あと、声優さんとの  
懇談という機会に恵まれたことも貴重な経験になりました。最後  
に林原さん、3ヶ月間様々な伝授をありがとうございました。そ  
して反応の少ない私たちですみませんでした(笑)



受講者が作成した吹き替え翻訳を実演中

■ 5月28日(木)

吹き替え翻訳講座

特別講師の声優

左：清水美智子さん

右：中川慶一さん

#### ■ 最終試験結果

・竹林志保

提出作品「私の生涯最後のスキャンダル」

チェソソミン

・崔聖民

提出作品「キム・ヨナ ドキュメンタリー」(編集含む)

#### ■ 感想 ■ 崔聖民

およそ3ヶ月に渡ったスクーリングは映像翻訳においてのたたく  
さんのスキルを学んだ時間でした。

そしてスクーリングと翻訳の仕事を進めていくにつれ「翻訳とい  
う仕事はサービス業である」ということを改めて実感しました。

商業字幕だからこそ常に字幕的な配慮を意識しながら翻訳に臨ま  
ないといけないという考えを強く持たせてくれたスクーリングだ  
ったと思います。今後もスクーリングで学んだことを仕事に生か  
せるように頑張りたいと思います。



## ニューズレター創刊にあたって

西ヶ原字幕社代表 林原圭吾

このたび西ヶ原字幕社では、従来作成しておりましたパンフレットに代わる、新たな広報・営業の媒体として、ニューズレターを作成することにいたしました。コンセプトは「翻訳者の顔が見える会社」。私たちに翻訳を依頼してくださるクライアントの皆様、そしてエンドユーザーであります視聴者の皆様、西ヶ原字幕社の取り組みや、社員の人となりをお伝えできればと思います。目指すは季刊、よろしくお付き合いください。

さて、食の安全への関心が高まる昨今、スーパーに行くと、野菜や肉・魚の棚に生産者の顔写真が貼ってあるのを見かけます。よく見ると、その顔には一様に力みがありません。きっとあの方たちは、「顔出し」するからといって特別なことをしているのではなく、常に世に出して恥ずかしくない仕事をしている自負があるからこそ、カメラを向けられても自然体でいられるのでしょう。

西ヶ原字幕社もかくありたいと、「翻訳者の顔が見える会社」をニューズレターのコンセプトにしたわけですが、実は、翻訳者の顔を見せられる翻訳会社というのは——少なくとも韓国語の映像翻訳の世界においては——結構珍しいのです。

世の翻訳会社の多くは、会社で仕事を受けて、登録させておいた個人翻訳者に振る、その実「翻訳コーディネート」会社です。ホームページなどでスタッフの紹介をしているところはあ

りますが、必ずしも彼らがーから翻訳をしているわけではありません。その点、西ヶ原字幕社の社員は全員翻訳者。だから、翻訳者の顔を見せられます。

ここだけの話、需要の波が激しい翻訳業界で、翻訳者を社員として常雇するだけの仕事を確保することは、決して容易ではありません。幸いにも今それが可能なのは、ひとえに私たちにオファーをくださる皆様、そして世に出た作品を楽しんでくださる皆様のおかげなわけですが、そんな皆様に、「この人が翻訳しているのだから、間違いない」と思ってもらえるよう、そして翻訳する私たちも、胸を張って自分の仕事を世に送り出せるよう、「翻訳者の顔が見える会社」でありたいと思います。

最後に、広報・営業という目的のもとで作るニューズレターではありますが、読み物としても読み応えのあるものにするべく、思わすうなってしまう映像翻訳の極意から、ほっとひと息つけるコーナーまで、社員一同、頭をひねってまいります。コーヒータイムや通勤時間のお供に、どうぞお見知りあれ。

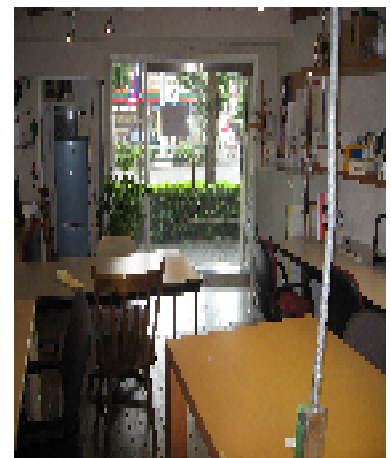


## 字幕社からのお知らせ

○事務所をお探しの方、注目です。現在、西ヶ原字幕社は杉並区桃井2丁目に事務所を構えていますが、手狭になり移転を考えています。この事務所は、元デザイン会社のオフィスだったものを、内装ごと譲り受けたもので、高い天井、珪藻土の壁、テック風の床、パイン材の棚・テーブル、珍しい照明など、デザイナーさんお手製のインテリアがそろっています。おかげで私たちは、入居時の内装費がゼロに抑えられたうえに、おしゃれなオフィスで働くことができました。この素敵な内装は、次に使ってもらえる人に巡り会えなければ、撤去すべき「ゴミ」となってしまいます。そこで西ヶ原字幕社も、移転の際には、内装ごと譲り受けてくださる方を見つけ、この資源を有効活用したいと考えています。

場所は荻窪駅から青梅街道を北進すること15分（約2キロ）。荻窪郵便局の東隣の建物の1階。南側、青梅街道に面したガラス扉を開けると、広さ12坪（約50㎡）のテック風の床が広がり、左手には一面パイン材の棚が、右手には同じく机が備え付けられています。右手奥には流し台があり、その前にカウンターテーブル（これもお手製）があります。左手奥にはトイレがあり、正面奥の扉を開けると、3畳ほどの物置があります。

定員は10~15人といったところ。かつて「事務所開き」と題して、事務所でパーティを開いたことがあります。立食で25人程度入れました。家賃は駅から離れていることもあり、15万円以下と格安です。3年前の私たちがそうだったように、これまで在宅で働かれていた方、事務所はほしいけどお金が、という方にお勧めです。「地球にやさしいことは財布にもやさしい」とはまさにこのこと。いい縁がありますように。



事務所風景



## 女優 たらちなつ

## 目指せ映像翻“役”者

**たらだ:** これまで20年近く、俳優として幾多の台本を手にしてきた私ですが、今度は映像翻訳者として、台本を作る側になろうと、西ヶ原字幕社の門をたたきました。こんな私に映像翻訳ができるでしょうか。

**林原:** できます！たらださんには早速、「雪の女王」「マイガール」の吹き替え2作品に、読み合わせ要員として加わっていただきました。履歴書が送られてきた当時から、たらださんがそういう形で、字幕社に有益な人材になるだろうと予想していました。

**たらだ:** 履歴書には大見得きっちゃいまして。というのも、韓国語はホント趣味の水準なんです。それで翻訳なんておこがましいですよ。

**林原:** とんでもない。たくさんの台本を精読され、多くのドラマ制作の現場に携わってこられたたらださんの経歴は、僕らがどう逆立ちしたってかなわないものです。例えば吹き替え翻訳というのは、原語から情報を得る段階と、得られた情報で台本を書く段階があって、両方できて初めて吹き替え翻訳といえます。実際、韓国語翻訳者でこの両方ができる人は、僕の知る限り、片手で数えるほどしかいません。

**たらだ:** こんなにたくさん韓国のドラマや映画が世に出ているのに？その数名は、さぞ忙しいでしょうね。

**林原:** その数名の手を介さなくても吹き替えはできるのですよ。先ほど吹き替え翻訳には「原語から情報を得る段階と、得られた情報で台本を書く段階がある」と言いましたが、それらを分業する、すなわち、韓国語の脚本を全訳して、それをベースに、英米のドラマの吹き替え翻訳をやっている人が日本語の台本に仕上げるわけです。今度きちんと統計をとってみようと思いますが、おそらく今世に出ている韓国ドラマの半分くらいは、そういう作り方をされていると思います。

**たらだ:** それは…、何だかなあって感じですね。私としては喜びべきことなのかもしれないですけど。

**林原:** 歴史的に見れば(笑) そういう作り方のほうが正統なのです。今でこそ韓国語の吹き替え翻訳者が数人でもいますが、ほんの4~5年前までゼロだった。仮に現在の比率が半々だとすれば、僕などは「よくそタイにまで持ち込んだな」と、感佩に浸ってしまいます。例えば、こう考えてはどうでしょう。吹き替え版を作るのは、小説や漫画のドラマ化のようなものだ。その場合も、プロの脚本家がドラマの台本に書き直しますよね。そう考えると従来の作り方だって、それほど変なことをやっつてわけじゃない。あらかじめ宣言しておきますが、僕は韓国語の翻訳者なので、そういう作り方に忸怩たる思いを抱いて、ここまで来ました。でも、それが現在まで支持されてきたのは、それなりの妥当性があるからです。そのことを認めないと、現状を乗り越えることはできません。

**たらだ:** そう言われればそうですけど、私も韓国ドラマが好きなので、やっぱりある程度正確に翻訳してほしいって思います。だって、それは二重に翻訳しているようなものでしょ？ 作品のメッセージとか、登場人物の心の動きとか、それで正確に伝わるんでしょうか。

私 たらちなつが、様々なテーマで情報をお届けするコーナーです。今回は“西ヶ原的吹き替え”です



原作のドラマ化だって、ドラマという新しい形に生まれ変わるわけですけど、そういう部分でかけ離れはしないでしょう。

**林原:** ごもつとも。僕はそのために、セリフのポイントを押さえることを意識しています。「このセリフでは、要は相手をフォローすればいい」とか「不承不承、言いくるめられればいい」とか。そういう発想は、1セリフ単位から1シーン単位、1編単位から1作品単位まで応用可能です。

同じような発想は、原語の分からないリライターの当然のようにやっています。字幕社も過去の作品で、英語の吹き替えの人に協力を仰いだことがあります。そこで感じたのが彼らのすごさ。原語が分からないからこそ、全訳と映像からストーリーなりメッセージなりを汲み取る感性が冴えわたるといいます。例えるなら、ソムリエがワインのテイastingをする時、目隠しをするようなものです。

しかし、同時に彼らの限界も目の当たりにしました。なんて言うか、要はチェックが大変だった。「ほとんど外さないこと」と「まったく外さないこと」は違いますからね。今回「マイガール」は、全訳を作らず、すべて韓国語翻訳者が映像から直に吹き替え台本を書きました。その結果、これまでの作品の中で一番つづがなく本を書き終えられた気がします。

**たらだ:** やっぱり両方できる人、韓国語が分かって、かついい台本の書ける人が増えるのが一番いいわけですね。

**林原:** いいかどうかは、こちらが判断することではありませんので(笑)。ただ言えることは、原語が分かる人であっても、ポイントを外すことはあるし、誤訳を出すこともある。そこは原語の分からないリライターと違いはありません。違うのは、正確だったか間違っていたかの判断がつくことです。テイastingをしたソムリエが、目隠しを外さなければ、自らの舌が正しかったかどうか確かめられないように。吹き替え「翻訳」が、小説や漫画の脚本化と違うのも、この点でしょう。そういう意味で、原語の分からないリライターが入るにしても、原語の分かる人との密なコミュニケーションは、あらまほしきこととなります。

**たらだ:** 聞きたいことがたくさん出てきましたが、そろそろ1回目の分量はオーバーですね。次回の予告を。

**林原:** 次回は吹き替え翻訳のテンションというか、「原語があってそれを翻訳する」という意識からいかに脱するか、というテーマで話をできればと思います。キーワードは「ジャンプ」かな。今回はイントロということで僕はかりしゃべってしまいましたが、次回はたらださんの経歴も大いに語ってみたいと思っています。

## たらだ ちなつ

神奈川生まれ。TBS緑山塾(俳優養成所)を卒業後、約20年間TV・CMを中心に活動。劇団・企業セミナーの講師を経て、西ヶ原字幕社の門を叩く。「この世界に飛び込んで初めて、日本語の難しさに直面し、同時に豊かさを再発見！勉強の毎日です」



## Essay

## 韓国字幕事情

朴澤蓉子



韓国留学中、韓国人の友人に「夢は映像翻訳家だ」と言うと、決まって「ふうん」と言われた。期待していた反応より3分の1くらいテンションが低い。なぜ。なぜ「すごいね」と言ってくれない。映像翻訳家って憧れの職業じゃないの?!

その謎はすぐ解けた。きっかけは韓国人の友人が貸してくれた「24」のDVD。どこかでダウンロードしたものらしく、素人の字幕がついていた。その字幕がすごい。言っていることが全部字幕になっているので、セリフが多いシーンは、軽く5行は超えている。ねえさん、事件です。ジャックが字幕で見えません。いっぺんでは読みきれないので一時停止を繰り返していたら、「24」どころか「72」くらいかかった。

韓国にはyoutubeのような動画共有サイトが多数存在し、日本のドラマもよくアップロードされているが、その字幕も、見てみるとほぼ直訳聞き取れないところは「☆ごめんなさい、分かりません☆(^-^;)」。

いいなあ、これで済むなら私もそうしたい…。というのは半分冗談で、つまり韓国では素人がつけた字幕のシェアが圧倒的に多く、それに見慣れてしまっているのだ。劇場公開の映画などにはきちんとした字幕がついているが、きちんとした字幕といっても字数やスポッティングにはそれほどこだわってはいなかったりする。とにかく韓国では字幕は、大げさに言えば「内容が分からない、語学ができれば誰でもできる」くらい存在なのだ。

そう考えると、日本の字幕ってすごい。映像の邪魔をしないように、字数、改行、表記、インやアウトのタイミング…。あらゆることにこれでもかというくらいこだわる。すべては映像翻訳家の先輩の方々が、映像を、観客を大切に思い字幕をつけてきた苦勞の賜物。私も映像・観客思いの翻訳家になる決意を新たにしつつ、いつか日本の字幕文化を韓国に浸透させることができれば、なんて野望もあつたりなかったり…?

## 西ヶ原巡礼



## ①プロローグ

鶯鳴のシンボル  
地蔵通り商店街を臨む

「餃子だけひたすら食べるとか」。ふと口にした一言が発端であった。「餃子だけ食べる店ってどこだろ?」「ファイト餃子とか。懐かしいな。こうして12月某日、「ファイト餃子」を目指して電車に乗り込んだ。

「ファイト餃子」は豊島区西巣鴨所在。白山通りを隔てて隣は北区西ヶ原4丁目、2000年に移転するまで東京外国語大学があった場所だ。わが「西ヶ原字幕社」の社名はここにちなんでいる。会社を立ち上げた際、社員の5人中4人が外語大出身だったことから、「西ヶ原」の地名を社名に載せたのだ。「西ヶ原にないに西ヶ原字幕社」というのが話題のネタになる、という下心もあった。ちなみに「字幕社」の部分は、無声映画の保存を行っている「マツタ映画社」にヒントを得ている。

ところが、ウケを狙って社名に載せたのに、いまひとつ効果がない。クライアントが外語大の出身者だったりすると盛り上がるのだが、そうでないとスルーされることもしばしばである。もっと西ヶ原の知名度を上げないと、期待した効果は得られないのではないか。そこでこのコラム。今回から連載で、西ヶ原字幕社の聖地、西ヶ原の今をレポートしようと思う。

とはいえ、物事には理由がある。西ヶ原の知名度が低いのも、大したものがないからに他ならない。何を隠そう筆者も、外語大が移転して以来、ついぞ足を運んだ記憶がない。今回、餃子を食べるついでに、久々に西ヶ原まで足を伸ばしたのが、おそらく8年ぶりのはずだ。外大の跡地はどうなっているだろうか?下宿していたアパートは?よく行ったあの店は?鶯鳴所に降り立ち、白山通りを眺めた時、自宅を出てわずか45分だというのに、無性に遠くに来た気がした。(続く)

## スタッフ ぷちインタビュー



インキョ  
李仁瓊 09年3月入社

83年ソウル生まれ 0~3歳と12~16歳を韓国で過ごす



## 仕事をされていて楽しいと感じる時は?

翻訳が終わった時です。表現力に自信がなく、なかなか簡潔で字幕的な言葉が思い浮かばないため翻訳中は必死です。その分、終わった時は本当にうれいします。達成感もあります。

## 表現力に自信がないのはなぜ?

今までとても偏った言葉遣いをしてきたのですが、それを個性として仕事に生かしてきました。でも今の仕事は、正しく分かりやすい言葉を基本に、出演者・役柄の個性を字幕に表現しなければならず、とても難しいです。

## では自信のあることは何ですか?

役にすぐ入り込めます! なりきって字幕を作ります。字数制限のある字幕翻訳より、吹き替え翻訳のほうが向いているように思います。

## 今一番したいことは?

旅行に行ったり、家でんびりしたいです。

## 最近あったうれしいことは?

家の観葉植物が元気に育っていること。一番好きなのは、彼が株分けしてくれたランキュラスです。

## 今後の抱負を

早く一人前になり、バリバリ仕事をして稼ぎたいです。

短い時間で効率よく。自分の時間を楽しむために!

## 編集長のつぶやき

今年は冷夏で夜は驚くほど涼しい風が吹いています。私のビールも量も平年以下。エアコンを一度も使わないまま秋になりそう…

編集/発行 有限会社西ヶ原字幕社 2009年8月15日発行 vol.1

〒167-004 東京都杉並区桃井2-2-7 TEL& FAX: 03-3397-1533

■ホームページ <http://jimakusha.co.jp> ■E-mail: [info08@jimakusha.co.jp](mailto:info08@jimakusha.co.jp)

